

## 研究主題

# 各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業の展開 ～「対象へのかかわり」に焦点を当てて～

## 1 研究主題について

### 「各教科等の特質に応じた学びの本質」とは

各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業 = 「主体的・対話的で深い学び」のある授業

「各教科等の特質に応じた」という言葉は、「中央教育審議会答申（平成28年12月）」の「深い学び」についての説明のなかに見られる。※答申の太字、下線は本校の加筆によるもの

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだしして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」

本研究のめざす各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業の展開は、いわゆる「深い学び」のある授業を追い求めていくことで実現すると考える。この「深い学び」は、指摘されている授業改善の視点の1つである。その他、「主体的な学び」「対話的な学び」の2つの視点とともに示され、その関係性については同答申において次のように示されている。

これら「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点は、子供の学びの過程としては一体として実現されるものであり、また、それぞれ相互に影響し合うものもあるが、学びの本質として重要な点を異なる側面から捉えたものであり、授業改善の視点としてはそれぞれ固有の視点であることに留意が必要である。単元や題材のまとまりの中で、子供たちの学びがこれら三つの視点を満たすものになっているか、それぞれの視点の内容と相互のバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが求められる。

改めて、本研究のめざす各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業を捉え直すと、いわゆる「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つを備えた授業ということになる。

### 「深い学び」をとおして育成する「資質・能力」とは ~3年次の着眼点~

1年次においては、単元（題材）構成、発問等の教師の言葉かけ、教材・教具、学習形態、場等、各教科等で実際に様々な学習指導の工夫を試み、「主体的・対話的」であることはもちろん、「深い学び」であったかという視点で授業検証を重ねてきた。

2年次においては、「深い学び」のある授業の創造のために、手立ての有効性を検証した。それだけではなく、講じた手立ての先に期待する子どもの姿を、各教科等研究部でどのように捉えていたのかを明確にしていくこと、つまり教科等を問い合わせた。「深い学び」のある授業を創造するためには、「なぜ各教科等を教えるのか。」等の視点で各教科等の指導を問い合わせることが必要であると考えた。また、これまで本校が大切にしてきた「附属スタンダード」にも焦点を当て、共通実践した。この常時指導は当たり前のことであるが、学びに向かうための教科等横断的な資質・能力であると考えられる。さらに、「主体的・対話的で深い学び」を求める教師自身が「主体的・対話的で深い学び」を体験する必要もあると考え、校内授業研究会を教師の「主体的・対話的で深い学び」と位置付け、研修を積み重ねてきた。

2年次では、本校における「深い学び」を次のように定義した。

行きつ戻りつしながら、よりよい解決の在り方を探り続ける過程に生じる学び

2年次までの研究をとおして、「深い学び」のある授業の創造を行い、「深い学び」についても定義できた。では、その本校で定義した「深い学び」をとおして、子どもにどのような資質・能力を育んでいければよいのであろうか。その資質・能力を身に付けた子どもの姿はどのようなものであるのか。そのめざすべき子どもの姿を明らかにしていくことが、3年次の着眼点である。

### 3年次（2019年度）の研究内容

- 各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業の展開
  - ・ 各教科等ならではの学習指導
  - ・ 授業実践・検証～教師の「主体的・対話的で深い学び」～
  - ・ 「深い学び」をとおして育成する資質・能力

めざすべき子どもの姿を明確にしていくことで、現在行われている「学習プラン」（年間単元・題材配列表）の見直しも、より本校の子どもの実態に応じたものとなっていくであろう。教科等横断的な捉えである「深い学び」の先にどのような子どもの姿を期待するかを明確にしながら、各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業の展開を実現していきたい。

## 2 副題～「対象へのかかわり」に焦点を当てて～について

「対象へのかかわり」に焦点を当てる → 各教科等の特質に応じた学習過程を意識して授業を展開することにつながる（どのように対象を捉えるのか、どのようなかかわりを期待するのか）。

対象とかかわることは、教科等横断的なものであり、その具体については各教科等ならではの独自性がある。子どもの資質・能力を育成するための「深い学び」のある授業をするとき、「何を対象とする」のか、また、「どのようなかかわり」を期待し学習指導を行うのか、さらに、「関連しているものは何か」といったこれらの視点が、各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業の展開の実現につながると考える。

## 3 研究の仮説について

「対象へのかかわり」に焦点を当て、各教科等の特質に応じた学習指導の在り方を追究していくことで、「主体的・対話的で深い学び」、つまり「各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業の展開」が実現でき、子どもの資質・能力を育成することができるであろう。



## 4 研究計画について

年 次	研究内容
1年次	○ 各教科等の特質に応じた学びの本質に迫るための学習指導の工夫
2年次	○ 各教科等の特質に応じた学びの本質に迫るための学習指導の在り方
3年次	○ 各教科等の特質に応じた学びの本質に迫る授業の展開 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 各教科等ならではの学習指導</li><li>・ 授業実践・検証～教師の「主体的・対話的で深い学び」～</li><li>・ 「深い学び」をとおして育成する資質・能力</li></ul>

## 「深い学び」をとおして育成する「資質・能力」とは

「深い学び」の先にある子どもの姿はどのようなものであればよいか。昨年度末に、本校の子どもの実態について全職員で語り合い、教師の期待する姿や子どもの課題を整理してきた。

資質・能力の3本柱である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」のそれぞれにどのような子どもの姿を期待するのかを全職員で明らかにしていく必要がある。

### 「深い学び」をとおして育成する資質・能力

知識・技能	学習や生活の場面で活用するために、新たな知識及び技能を既存の知識及び技能、経験と関連付けながら理解し、自分なりに再現できる姿
思考力・判断力・表現力等	問題を解決するために、知識及び技能をつなげながら解決方法を多様に考え、より妥当な考え方へと高めていく姿
学びに向かう力・人間性等	見出した問題を自分事として捉え、仲間の考え方を聴いたり、仲間とともに考えたりしながら解決していくこうとする姿 学びを日常生活に生かそうとする姿

この資質・能力については、子どもの発達の段階、各教科等との関連等も考慮して今年度、さらには次年度も見据えながら本校の子どもたちにどのような資質・能力を身に付けさせていくかを整理していきたい。

大切なことは、まずは各教科等がしっかりとその教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせるような授業を展開していくことである。教科ならではの「見方・考え方」を身に付け、それを他教科や日常の問題解決に生かすことができるようになることが大切であろう。そうすることで、上記に定めたような資質・能力が身に付いていくことも考えられる。

